



「ネットワークの進化の先に 成功する企業が見えてくる」

日本テクノロジーベンチャーパートナーズ代表
村口和孝

いつでもどこからでもネットワークにアクセスできる「ユビキタス」という概念が、IT関連業界の経営者、また、投資家たちの期待を集めている。

ブロードバンドのインフラによって大容量かつ高速でコンテンツの配信が可能になり、常時接続が当たり前になる。一方で、半導体をはじめとする電子部品の進化によって、コンピュータの超小型化、携帯化が進む。さらには、IPv6に象徴されるように、ありとあらゆる電気製品がネットで結びつき、通信機能を持つようになる。

多くの事業家がこうした環境の劇的な変化に、ビジネスチャンスを見出そうとすることは当然のことではある。

しかし、過去インターネットの周辺にはさまざまなおびただしい数の企業が登場しては消えていった。潜在的に市場の成長が見込めるといふことと、そこで収益を拡大していけるということとは別次元の話だ。

かつて、中央のサーバがデータベース機能を持ちユーザーの端

末から一方的にアクセスして情報を取りに行くクライアント/サーバの時代から、ユーザーが端末を通じてデータベースと情報のやり取りをすることが可能になったコミュニティサイトの時代に移行したときでさえも、そこで急激にコンテンツサービス会社の利益が拡大したという話は聞かない。

投資のポイントは、技術の大きなトレンドに対してその会社が差別化された技術やノウハウを持っているかどうかである。

常時接続・大容量通信の時代に、次世代ウェブサービスの記述言語の標準と目されるXMLの技術に通暁するインフォテリア。また、最も消費生活が変わる家庭の主婦をオークションというノウハウを武器にがっちり囲い込むディー・エヌ・エイ。そして、ファイアーウォールからウイルスまでトータルなセキュリティを提供するトリニティーコミュニケーションなどが注目される。

村口和孝

むらぐち かずたか…慶応義塾大学経済学部卒業、野村證券系ベンチャーキャピタルのジャフコ入社。1998年、イスラエル休暇旅行を機に独立。同年ベンチャー支援サービスの(株)NTVPを設立し、日本初の投資事業有限責任組合を設立登記。

技術トレンドを読む—主な投資先

投資先企業名	事業の特徴	設立	資本金(単位:百万円)
インフォテリア (XMLソフト開発)	国内初のXML専門ソフトウェア企業。XML基本ソフトからB2B対応まで。	1998年9月	1410
アイ・アンド・エフ (画像圧縮技術)	研究開発型ファブレス企業。高速伝送と大量保存、高画質再生技術。	1998年4月	194
ヘルスケアネット (ヘルスケア情報システム)	ヘルスケア産業向け医療情報コンテンツソフトと個人向け健康情報サイト。	1999年12月	138
トリニティーコミュニケーション (データセキュリティ開発)	デジタルデータをマシン語レベルで制御。大容量ストリーミングにも対応。	1999年11月	156
エナックス (次世代電池開発)	ノートPC、デジタルカメラから次世代電気自動車向け大型バッテリーまで。	1996年4月	507
イチレイオン (モバイルソリューション・プロバイダ)	共有可能なスケジュール管理機能を持つ携帯端末などのシステム開発。	1999年12月	340
ディー・エヌ・エイ (ネットオークション運営)	ネットオークション・サイト、リサイクル情報サイトなど総合ECサイトの運営。	1999年3月	1454
ナイトライド・セミコンダクター (紫色LEDの開発)	窒化ガリウム利用の紫外線発光ダイオードを開発中。ディスプレイや照明以外の用途にも期待。	2000年4月	501